

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300446		
法人名	医療法人社団 友志会		
事業所名	グループホーム 森の舎		
所在地	下都賀群野木町南赤塚1218-8		
自己評価作成日	令和2年1月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森の舎(大地の家)周辺は住宅地があり併設施設もあるが、森の舎は緑が多く、庭には花壇、畑もあり四季を感じ、自然と一体になった雰囲気がある。児童養護施設、小規模特別養護施設が隣地にあり、子供たちとの交流も時折行っている。高齢者と幼児・児童が生活の場としてふれあいながら暮らしている。認知症になっても大勢の人との関わりを大切にできるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・平成12年に県内初のグループホームとして開設された。現在3棟あり、隣接する住宅地に溶けこむように建てられており、近隣住民や登下校する小学生と挨拶するなど、地域住民との付き合いが日常的に見られている。
- ・系列の老人保健施設や児童養護施設、保育園などと協力し、利用者同士が交流する機会を多く作っている。また、系列の多職種と連携も図り、事業所で起こる課題や問題を協働で解決する取り組みも行われている。
- ・利用者の思いや意向を大切に、日々のケアの中で叶えられるように全職員が心掛けている。また、利用者が生活しやすく、家族等が気持ちよく来訪できるよう、事業所内の装飾を明るく、綺麗に整えるよう努めている。
- ・系列の協力医による定期的な往診があり、利用者に適切な病院や認知症に理解のある専門医の紹介を行い、利用者・家族が適切な医療を安心して受けられるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いっしょにケア、ケアされるケア」を掲示し、独自の理念を作っている。職員は理念に沿ったサービスを提供している。	事業所独自の理念に沿って、各棟の現状に合わせた年間目標を設定している。3か月ごとに各棟で振り返り、評価し、理念に沿ったケアが実践されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	気軽に挨拶をしたり、立ち話をする時もある。近隣施設への夏祭り、収穫祭や学校への文化祭に参加している。	小学校からの職場見学を受け入れたり、中学校の文化祭に招かれたりと、生徒と利用者の交流が昨年から続いている。恒例の法人の夏祭りには、役場職員、商工会、地域の方を招待し、利用者や家族とともに楽しんでいる。また、日常的な散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わすなど日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の行事等に参加し、地域の人々に認知症になっても生き生きと生活出来ている事を実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議では、定例会議や安全対策(ひやりはっと報告等)で細かい内容についても話し合い、状況を確認している。	会議には役場職員や地域包括支援センター職員、区長、家族代表者が参加している。それぞれの視点に基づき、意見を出し合ってもらい、改善や解決に繋げている。さらに、3棟それぞれで運営推進会議の内容を報告・確認し、現場のサービス向上にも繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練時、役場担当・消防署にて協力を得ている実践者研修の案内受付も役場の協力を頂いている。	町が認知症理解の啓発活動に積極的に協力している。地域包括支援センターから在宅生活が困難なケースの入居相談に応じることもある。日頃より行政とのやり取りを意識し、協力体制を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は絶対に行わない」3棟合同ミーティングでも勉強会を行っている。	法人全体で身体拘束を「しないケア」、という決意のもと、利用者の行動を制限するのではなく、利用者が安全に行動できる環境調整の工夫に取り組んでいる。外に出た方には、付き添いの外出支援を行っている。また、身体拘束の勉強会も行い、全職員がしないケアについて学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行っており、虐待は絶対に行わない様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族またはご本人様の希望に応じて、権利擁護制度を利用できる用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退居時に十分な説明を行い、理解して頂く体制となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様ご家族様の意見を聞き、行っている。毎月苦情対策委員会で苦情内容についての話し合いを併設施設と連携して行っている。家族会開催時に意見を聴いている。	日頃の面会の他に、年に3回家族会を開催し、意見を聴いている。普段の様子をスライドショーで紹介し、家族に事業所の取り組みを紹介するなど、より意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。利用者からは日頃の生活の中で聞き出すようにし、外出や外食の意見を行事として実践したケースがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、3棟合同、各棟ミーティングにおいて意見を出し合い反映されている。司会・書記も持ち回りで行い全員の意見の集約に努めている。	職員との面談は随時管理者が行い、意見を聞き、業務の見直しに活かしている。その他、管理者は月1回の各棟ミーティングにも随時参加し、職員の考えを聴くようにしている。職員同士も相談しやすい雰囲気があり、意見を出し合う関係性が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、他施設と同様に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修、法人内研修に参加し、内容を合同ミーティングで報告し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協会でネットワーク作りは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から話を傾聴したり、生活歴などを参照し本人の観察を行い要望や訴えを受け入れる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が家族と面会し施設の特徴や役割、認知症についてのお話しをし家族との相互理解に努めている。また、随時施設見学も受け入れ不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の相談員が本人、家族と面会し、入居前から希望や状況の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共にレクリエーションや家事(食器拭き・洗濯物干し・洗濯物量み等)を行い役割をもち支え合う事で生活の質の向上に繋がるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や行事の参加等随時行って頂いている。また、行事の時や面会時に食事介助や誘導・移動など自然と行って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、親戚以外の知人でも本人が以前住んでいたご近所の方など頻りに面会に来舎したり、週に1度、友人の迎えで外出している。。	家族や友人が気軽に訪ねてこられ、利用者との会話を楽しむ姿が見られている。正月に自宅へ外出し、身内の方との一時を楽しむ利用者もいる。事業所自ら馴染みの外食店などに連れて行くこともあり、人と場の関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを共に行い入居者同士の会話を図る上で入居者同士の助け合いや気持ちの支え合いにつなげていける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経管栄養になった場合や家族の希望などで法人内・外の施設に移動になる方がおり、職員は時々様子を見に行き、コミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や要望を尊重する様努めている。外に散歩に行きたい、身体を動かしたい等の希望があった時は随時時間を設け、希望に添えるよう支援をしている。	家族からの情報や生活歴、思いを実現できるようにチームで取り組んでいる。また、普段からコミュニケーションを多くとり、一人ひとりの思いや意向を把握できるように事業所全体で努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時、普段の生活の中で随時これまでの生活歴や希望・不安・不満なこと等を聞き馴染みの暮らしに過ごせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランや介護記などを用い、入居者の普段からの暮らしや観察を通し職員間の情報交換を密に行い入居者の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成、更新にあたっては毎月のミーティングで職員同士の話し合いを行うほか面会時や行事の時などに家族と相談を行うことにより本人、家族の意見・希望を随時反映したケアプランを作成している。	利用者・家族の意向を事前に聞き取り、医師や看護師の意見を取り入れて計画作成をしている。タブレットを使用し、日々変化する状況を即時に関係者同士で共有しているため、現状に基づいた計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録は細かく介護記録に記載し職員同士の情報共有を常に行う事で、本人の状態を常に把握できるように努め、介護計画の見直しに活かせる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を常に観察し必要に応じて医師・看護師・作業療法士・理学療法士への相談、連絡を行い本人の生活の質の向上に繋がるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力のもと定期的に多様のレクリエーションをおこなっている。また行事の際にもボランティアの方に依頼し鑑賞・催事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医の往診・対応を行っており本人・家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を選択することができ、家族が受診対応をしている。専門医の受診には通院情報提供書を家族に渡し、普段の様子が分かるようにしている。系列の協力医は利用者の普段の様子から丁寧に診察し、利用者・家族が安心して医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、併設施設老健看護師と連携をとり入居者が適切な看護や助言・指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図り、入居者が早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医と話し合い要望に応じられるよう方針を共有し対応・支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りについての説明を本人・家族に行っている。また、系列の老人保健施設や老人福祉施設、医療機関と連携し、重度化や急変時には管理者自ら利用者・家族の意向に沿った話し合いを行い、適切な支援に取り組めるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、マニュアルを作成したり、定期的な会議に対応できるよう話し合う場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度日中・夜間、火災を想定した避難訓練をおこなっており併設施設老健、特養職員等周辺地域と協力・連携体制を築いている。	消防署立会いで、年に4回避難訓練を実施している。全職員が参加できるよう勤務を調整している。訓練では揺れを感じたら窓を開けて隙間をつくり逃げやすくしておく等、過去の震災を教訓として実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを大切に対応している。	随所にソファやテーブルを配置し、ひとりで寛げる空間を設けている。利用者が嫌な気持ちにならないように心掛け、目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。入浴は基本的に利用者と職員の1対1の入浴を心掛け、プライバシーを配慮した対応にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に合わせて支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人ひとりのペースを大切にその人らしい生活を送れるよう希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪店に来てもらい本人様の希望も聞き理髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けや盛り付けに配慮し、入居者と職員と一緒に食事をして食事を楽しんで頂ける様な空間を大切にしている。	温かいものは温かく、冷たいものは直前に冷蔵庫から出して盛り付けるなど、見栄えよく、おいしく食事ができるように提供している。誕生日会で外食をしたり、おやつ作りをしたりと食事の楽しみにも心掛けている。また、お血拭きや下膳をする利用者をさりげなく職員が見守り、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事形態、食事量、水分量を記録、把握し一人ひとりの状態、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ、義歯の洗浄、口腔ケアを行っている。状況に応じて職員が支援し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声掛けをしたりトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握することで、紙パンツから布パンツに変更になる方もいた。月1回のミーティングや日々の関わりの中でその人に合わせた快適な排泄ケアのあり方を話し合い、職員が統一して行えるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを摂取して頂き、又、頓服の便秘薬を便秘時に使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があった場合は随時対応している。一人ひとりがゆっくり入浴できる様に配慮している。ADL低下した方は、座位式機械浴で入浴を行っている。	入浴時間は決まっているが、その日に入浴したいと希望する方にはできるだけ対応している。拒否のある方には無理強いはせず、タイミングをみて時間や日にちを調整する対応をしている。基本的に利用者と職員1対1での入浴であり、コミュニケーションをとりやすいように配慮し、会話を楽しくめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングや居室で自由に過ごされている。夜間帯職員が入居者の状況に応じて談話したりして安心できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに処方箋がファイルされていて職員は常に使用している薬の目的や副作用、用法や用量を理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル、カルタ、ぬり絵、歌、ボール投げなどを楽しみ、天気の良い日には散歩や日光浴をして気分転換をしている。又、食器拭きや洗濯物畳みを手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、誕生日会やお楽しみ会では外食等もしている。又、家族と食事や買い物に出かけている。外出、外泊先では常に協力を得ている。	利用者に自宅や家族の家、外食や理髪の外出などを支援している。天候や利用者の体調に応じて散歩をしたり、事業所の庭の菜園で収穫を行っている。誕生日会では外食に出かけている。	近場に気軽に外出し気分転換を図る機会以外に、もう少し遠くまで出かけることができるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて近くの自動販売機へ飲み物を買に行ったり、買い物に行ったりする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族への電話を希望している時には電話をして会話を楽しんで頂く。又、ご家族や親戚からの手紙、年賀状はご本人に渡し一緒に読んでみる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉やエアコンを調節したり、掃除をしっかり行い清潔を保ち快適に過ごして頂ける様に環境作りを行っている。又、季節に合わせた飾り付け展示物も工夫している。	系列の児童養護施設の子供たちの絵やイベントでの写真、季節感のある飾り物、利用者の書道や俳句が、飾られている。共用空間のリビングやトイレは掃除が行き届き、加湿器を備えるなど快適な環境となっている。天窗からは自然光が入り、明るく居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が一人ひとり、自由にのびのびと過ごせる様にソファやテーブル、椅子などを複数設置し工夫し環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、本人の好きな物を置いたり、使い慣れた家具や布団を持って来たりして居心地良く過ごせる様に工夫している。	大切にしている写真や使い慣れた馴染の鏡台や仏壇が持ち込まれている。入居し暫く経ってからも利用者や家族と職員が相談しながら、レイアウトを変更することも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の導線、生活圏には手すりの設置、スロープの設置等、バリアフリーを徹底する事で、入居者様が出来るだけ自分の力で充実した生活を送れるようにしている。		